

障害がある人もない人も一緒に登山を楽しむしろまの会 会報 2016年12月

# しろまニュース

vol. **20**  
山行に行ったら発行



## 11月山行 日の出山

2016年11月20日(日)

(標高 298.9m) 幹事 道下・岩尾

11月の山は日の出山に決まり下見に行く事になりましたが幹事2人共に休みが合わず単独での山行。上養沢までバスに揺られ降りましたが平日のせいか人はまばら…。

人が多いのは苦手なのでラッキー位に思ってましたが登山口に熊出没との貼紙がありそれも2枚…恐る恐る登り始めましたが内心かなとビクビクしてました。前も後



ろも人は居ないし時折風の音？ガサガサと聞こえて来るたびに早足になる始末。

道中の橋など危険箇所をチェックしながら頂上を目指します。傾斜もそんなにキツくなく程よい汗をかきながら到着です。低山ながら見晴らしも良く当日も晴れると良いな〜と期待してたのですが前日の雨とサポート不足で急遽ルート変更となりました。

武蔵五日市駅からではなく御嶽駅からバスに乗りケーブル利用で日の出山を目指すことに。

シーズン中なので覚悟はしてましたが駅を降りるとトイレもバス乗り場も長者

の列。ケーブルもかな？ と思いましたがそんなに待たずに乗り込むことが出来てホッとしました。ケーブルに乗り込み御嶽駅を目指します。なかなかの勾配で途中すれ違う場所や窓からの景色など堪能しつつあ〜という間に空中散歩は終わりました。ここからは一般道と山道を通り歩きます。

ケーブルで上まで来たので油断しましたが歩き始めると整備されてはいるものの坂道が多くそれかなりの傾斜。それでも皆で協力しながら声を掛けあい和やかな雰囲気が進んで行けたと思います。急登では汗だくでしたが(笑)

道中では会長の持参したトランシー



バーも大活躍。班分けしたそれぞれのリーダーに持って貰い連絡を取り合いながら進みます。御嶽山に向かう人は多いのでしょうが日の出山には程よい人数で渋滞すること無く歩けました。しばらくすると木の根や砂利道になって来たので車椅子を置ける場所を確保し皆で歩きます。だいぶ奥まで乗って来れたので頂上までもう少しなんでしょうが階段が続き体力を奪われます。

休憩を挟みながら歩き続けていくと他の班からももうすぐ頂上！との声を聞き最後のひと踏ん張り。着きました。頂上は意外に広く景観も言うこと無し。個々に場所を確保し早々に昼食タイムです。

運動後のご飯と甘いものは格別。景色と共に堪能しつつゆっくり出来ました。遠くに見える山々を見ながらあの山は？などと山話にも花は咲きあ〜という間に休憩時間も終わり。記念写真の撮影を行い早々に下山です。

行きと同じ道に戻るのですがやっぱり登りより下りは楽ですね。汗の出方が全然違いました。

順調に下ってケーブル駅まで来たところ長い列…。

帰る人達のピークなんだろうが混んでいます。係員の人に車椅子利用を伝えたのですが手違いで他のメンバーより後のケーブルになってしまい…。





少々不満点も有りましたが皆無事に降りることが出来また紅葉も楽しめて良い秋の1日を過ごせた事に感謝です。季節柄風邪などで急遽不参加の方も出てしまったりルート変更したりと変更点が多かった今回の山行ですが皆さんご協力ありがとうございました。



帰路もきつこう配が・・・

#### 障害参加者から

今回のケーブルカー、設置会社の職員によるおみこしで、車イス参加者2台すみやかに乗車できました。意外に車いすのお客さんは多いのだとか。

帰りのケーブルカーでは、横入りさせてもらったにもかかわらず後回しになってしまい普通に並んだ方が早かったのですが、ま、こんなもんです。

乗り物はもちろん遊園地にしろ美術館にしろ、車イスユーザーは建物の管理者によって別ルートを案内されるのが常。階段のないルートを取るといってもありますが、混雑している現場で事故が起こらないようにという管理者側の配慮が大きいんだと思います。健常者と一緒に車イスの客を並ばせる施設はあまり見ないです。やった横入り！と思いきや、でも多くの場合後回しになるのですが…。

例えば飛行機では障害者は優先搭乗の対象ですが、降りるのは一番最後。車イスの場合、全乗客が降りきるまで待たされます。鉄道も2本3本見送るのは当たり前。急いでいる時はさすがにイラッときますが、職員さんとお話できるよい



ケーブルカーは途中ですれ違います

機会と思って、心と時間に余裕をもつようにしています。

今回はバスもとても混んでいたのですが、どうなることかと思いましたが、的確な誘導で混乱無く乗車させていただきました。昔の乗車拒否を考えると（地方では今もあるようですが）、だいぶ変わったなあと思います。

## 『リース遠征隊』 観てきました

11月山行一週間前の土曜日12日、平成帝京大学（池袋）にて「リース遠征隊」の上映会およびトークセッションが行われました。

#### ■リース遠征隊とは？

デンマーク在住の障害者、ヤコブ・リースさんと健常者の友人で結成された、北ヨーロッパ最高峰、ノルウェーのガルブピッゲン山登頂を目指す7人の仲間たちです。

ヤコブ・リースさんは脊髄小脳変性症の1つマチャド・ジョセフ病を十代で発症。彼の病の進行の早さに驚いた友人は思いました。「登るなら今しかない」。

しかし彼らは、しろうまの会のようにしょっちゅう山に行っている仲間同士というワケではありません。『エグモントホイスコーレ』という学校の友人たち。まずは登山に堪えうる車イスを作るところから始まりました。

その途方もない夢は、間もなくハード



でリアルなチャレンジに変わります。この過程をドキュメンタリーとして映画にまとめたのが今回の上映作品です。

#### ■登山の過程

登山は遠征隊全員にとって過酷なものになりました。ヤコブさんは食事、排泄、姿勢の維持など生活の全てにわたって困難を伴います。加えて気象の悪条件が重なれば体温や体力がもちません。特別に改造した車イスが岩だらけの急な斜面では障害者を乗せたままは押し上げられず、ばかりか大きな荷物になる。ヤコブさんを背負って登るも、しろうまの会が使用する背負子のような自助具がないため、背負う方も背負われる方も体力を消耗する。そしてこの遠征は小屋やテント泊を

含む長丁場。

実際、悪天候の中で諦めかけるシーンがあります。下手をすれば命に関わる。彼らが手放すことなくつかんだ「今」というタイミングは的確だったのか。鑑賞者はハラハラします。

それでもとにかく前に突き進む。これこそが若さ！ チャレンジは果たして成功をおさめ、本人たちはもちろん見ている私たちの誰もが感動します。



## ■北欧の学び

そもそも彼らの絆はどこに端を発しているのか。それを知るにはまず北欧独特の教育システム「ホイスコーレ」を知る必要があるでしょう。

これは私も知らなかったのですが調べてみるととてもユニークな教育システムで、入学試験や進級試験などのない市民講座的な授業が行われる寄宿制の学校のようなようです。公共教育とは少し立ち位置が違いますね。寝起きを共にすること、人間同志のコミュニケーション、自然からの学び、を重視しているようです。デンマーク、スウェーデン、フィンランド、ノルウェーに相当数あり、日本の教育者

にも影響を与えています（奥が深すぎるので興味のある方は調べてみてね）。

## ■エグモントホイスコーレ

中でもデンマークのエグモントホイスコーレ、これはリース遠征隊の皆さん、それからこの上映会の前にプレゼンした日本の女子学生も学んだ学校ですが、ここはすごい。

設立は1956年。デンマークの全国障害者協会によって身体障害者だけの学校としてスタート。1970年、障害者と健常者を分けない統合教育を開始。学校は障害者も健常者も平常に暮らせるよう設備もケアも整備されている（<http://www.folkehojskole.jp/skoler/egmont-d.html> から引用）。

留学経験者の話では現在は健常者もかなり在籍しており、障害者はその中からヘルパーを雇うシステムのようなようです。

日本でも例えば筑波大学ではチューター制度を障害学生に活用しています。教室移動やノートテイクなどを健常学生が行い、大学から報酬が支払われるのです。

このように現代の日本の大学教育ではさほど珍しいことではなくなりつつあり



ますが（※）、しかしエグモントは寝起きを共にしてのサポートですから、日本のような障害者×介助者（ボランティア）、といった関係性にとどまることがないのかもしれませんが、そうでなければ、対等な関係を保持しながらあんな過酷な登頂を成功させることはできないと、私などはそう考えてしまいます。

エグモントは郊外の自然豊かな場所に立地し、授業にはスポーツや自然の中でのアクティビティもあるようです。ヤコブさんはここでアドベンチャーコースを選択しました。それがそものはじまりだったのです。



## ■さいごに

エグモントには日本の支援者もいてすでにレールは敷かれ、多くの障害学生が留学しているようです。

こんな学びの場が日本にあったら。壮絶な競争を競うことなく共に学べる場。就労訓練ばかりではなく、学びたいことを誰でも試験なく学ぶことができる場所。

障害を持つ人のための作業所建設すら地域住民に反対されてつぶされるこの日本に、そんな場があったら何かが変わる

のではないかと。

何もかもを海外の方が進んでいていいとは思いませんが、日本とはちょっと違うリース遠征隊の障害者と健常者の関係を見て、その背景にある教育システムをうらやましく思いました。

12日、映画の前には池袋西部デパートの屋上で例会を兼ねた昼食会があり、フードコートだったので思い思いの食事を楽しましました。

西武にあんな場所ができたなんて！という素敵な発見、平成帝京大学ってこんな校舎なのねという発見、そして久しぶりの再会があり、山以外の場所でもよい一日を過ごしました。

（※義務教育において文科省はインクルーシブ教育をうたっていますが、現実には分離教育が輪をかけて進んでいるような気がします。また高等教育は学力試験の壁が厚く障害生徒が進学したくてもできないという現状があります。大学にしても筑波のような事例が全ての大学に構築されているわけではありません。日本では教育に限ってなぜかノーマライゼーションがおざなりである、あるいはほんの一部の優秀な障害学生にだけ門戸が開かれている、私にはそのように見えています）

（文責：若杉）

<https://www.youtube.com/watch?v=k6z68GAO8mk>

→ youtube で映画のトレーラーが見られます。



# information

★ MLと重複しますが最近の連絡事項の主だったところをまとめておきます ★

## ■ 12月山行 & 忘年会 12月23日(金・天皇誕生日)

集合：10時 JR高田馬場駅、早稲田口改札外

行先：山の手線内の名峰登山

- ・箱根山 (44.6m 山の手線内最高点 (人造))
- ・品川富士 (12m 江戸の富士山 (人造))
- ・愛宕山 (25.7m 23区最高峰)

行程：10:00 高田馬場駅→(徒歩 25分) 箱根山→(徒歩 20分) 新大久保駅→(電車 20分) 大崎駅→(徒歩 18分) 品川富士→(徒歩 18分) 品川駅近辺 (13時頃 昼食) 品川駅→(電車 5分) 浜松町駅→(徒歩 10分) 増上寺→(徒歩 15分) 愛宕山→NHK放送博物館(見学) →忘年会 (17時頃)



主を待つ車イスたち



紅葉がきれいでした！

■ 2016年ももうひと月切りましたガ～ン！ 私事で恐縮ですが、昨年に引き続き今年も非常勤の仕事を辞めて真のブー太郎になりました。で、やろうやろうと思っていたこと、しました。袖とか裾とか自分サイズに長さをつめミシンで縫い直し着ないのは断捨離。読もうと思って買っておいた本を読了して断捨離。60GBしかなかったMacbookAirを240GB SSDにアップグレード。パーテーションを切って前から使ってみたくて無料の最新版をインストール。その最新OSでAppleのモバイル端末を同期。旧OSはAdobe専用にして大掃除。クラウドや借しサーバー内のデータを整理して断捨離。ネットの使っていないIDはことごとく退会手続きして断捨離。断捨離に満足したので、姪に教わりながらときどきポケモンGO。で、あっという間に一年が過ぎました。働き・・・■風邪の季節になりますが、お体に気をつけてよいお年をお迎えください。そして2017年もどうぞよろしくお願いたします。幹事さんでなくても原稿お待ちしております！

## しろうまニュース vol.20

2016年12月10日発行

障害がある人もない人も一緒に登山を楽しむ会 しろうまの会

ご連絡・お問い合わせ (お気軽にお問い合わせください) : [shirouma@sd5.so-net.ne.jp](mailto:shirouma@sd5.so-net.ne.jp)

ホームページ : <http://www.shirouma.net>

facebook : <https://ja-jp.facebook.com/shirouma4620>